

活動実績報告書

平成26年4月17日

登録番号 20130615

氏名 瀧口 潔

1. 活動状況

平成21年4月 ~ 平成23年3月

(記載事項)

・ 活動の概要

管内にある木材市場の入荷量が増えず、経営が低迷していた。これを立て直すため、平成21年度から22年度にかけて、森林組合と木材市場による話し合いの場を設け、経営改善に取り組んだ。また、平成21年度から中間土場を利用した大手合板工場への直販事業が始まったため、その指導を行うと共に、木材市場への出荷量を増やすため、森林組合と素材生産業者との協働に取り組んだ。

・ 当該活動を挙げた理由

地域の森づくりを考える上で、木材供給の拠点となる木材市場の活性化は重要な課題であり、それに取り組む中で関係者の合意形成を図っていくという作業は、森林総合管理士の役割ではないかと考えたため、この活動について取り上げることにした。

・ 当該活動における、あなたの立場と役割

出先機関の民有林担当として、森林組合指導や木材流通に関わる業務を行っていた。

当該業務では、主に木材市場と森林組合、素材生産者による話し合いの場を作り、議論の進行役を務めた。話し合いで出た意見は、林業普及指導員や県庁林業振興課と共有し、今後の議論の進め方や指導方針について話し合い、指導にあたるようにした。

・ 活動上発生した問題点と課題及びそれへの具体的対応策

1. 当時は木材市場への入荷量が少なく、買い手も少なく価格も安いという悪循環に陥っていた。
→木材市場の現状や今後の経営方針について共通認識を持つため、森林組合の参事と、木材市場の職員が話し合う場を設けた。木材市場の活性化や地域の木材安定供給のためにも、森林組合が施業集約化や素材生産業者との協働について取り組むよう指導した。
2. 森林組合と素材生産業者との間に信頼関係ができていなかった。また、森林組合に効率的な素材生産の技術、経験がほとんどなかったため、素材生産業者の出す見積金額が適正な金額かどうか分からなかった。
→素材生産業者と森林組合とで話し合う場を設け、協同で素材生産に取り組むよう指導を行った。また、森林組合の森林施業プランナーに対し、実際に素材生産業者が行った搬出間伐の現場データを元にコスト計算を行い、素材生産業者の見積が適正であることを確認した。

・ 活動による成果で残された課題及び今後の改善方策

木材市場の取扱量が増加したことにより買方が増え、市場が活性化してきた。しかし、経営が安定するまでには至っていないため、さらなる努力が求められる。

森林組合と素材生産業者との間で、協同で素材生産を行う合意形成ができ、実際に森林組合が取りまとめた森林で搬出間伐が行われたが、地域の木材安定供給という面から見ると、まだ取組が始まったばかりで、さらに供給量を増やしていく努力が必要である。そのためには、森林の集約化や路網整備、市場の営業力強化など、関係者がそれぞれの役割を果たしながら、一層連携を深めていくことが求められる。

2. 研修の受講状況

研修名 日本型フォレスター育成研修(准フォレスター研修)
平成23年9, 11月
(実施主体) 林野庁

研修名 日本型フォレスター育成研修(通信研修)
平成23年12月
(実施主体) 林野庁

研修名 日本型フォレスター育成研修(集合研修)
平成24年 2月
(実施主体) 林野庁

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

- ・ 各種研修の企画、運営又は指導者、講師としての参加

フォレストワーカー研修(木材流通と木材利用)講師 平成23年8月
(実施主体)山梨県林業労働センター

森林情報研修(GPS 活用)講師 平成23年11月
(実施主体)山梨県森林総合研究所

- ・ 森林総合監理士(あるいは森林総合監理士に関連していると考えられる)としての活動に関連する各種研修への参加

准フォレスター研修修了者のフォローアップのための現地検討会 平成25年1月
(実施主体)関東森林管理局

森林GISフォーラム 平成25年度岐阜県・地域シンポジウム 平成25年12月
(実施主体)森林GISフォーラム